

まちづくりの方針と交通体系

- ・ 宇都宮市では、「第5次宇都宮市総合計画」基本構想において、これからの人口規模・構造や都市活動に見合った都市の姿として、ネットワーク型コンパクトシティ（連携・集約型都市）の形成を掲げた。
- ・ この実現に向けて、現在、都市の将来像と整備の方向性を明確にするため、都市計画に関する基本的な方針である「（仮称）第2次宇都宮市都市計画マスタープラン」を策定しており、都市づくりの基本的方向を明らかにするとともに、土地利用や都市整備の方針を示した。
- ・ 宇都宮市都市・地域交通戦略では、第5次宇都宮市総合計画及び（仮称）第2次宇都宮市都市計画マスタープランにおけるまちづくりの方針を踏まえ、「ネットワーク型コンパクトシティの実現を支える交通ネットワーク」の形成を目指していく。

（仮称）第2次宇都宮市都市計画マスタープラン 全体構想（素案）の概要（抜粋）

「都市づくりの基本的方向」

○都市づくりの目標

市民の暮らし、都市の活力・魅力、地域環境が持続可能であり、それらを支えるモビリティが確保されるような都市づくりの目標を設定する。

- (1) 安心して快適に住み続けられる都市
- (2) 活力・魅力を創造し続けられる都市
- (3) 快適で安全に移動できる都市
- (4) 環境と共生した都市

○将来都市構造

都市づくりの理念・目標を踏まえ、都市の骨格を構成する「拠点」、「軸」、「ゾーン」により、将来都市構造を示す。

1 ネットワーク型コンパクトシティの基本的な考え方

- (1) 拠点配置 ～ 一極集中ではなく、中心市街地を核とした拠点連携 ～
- (2) 市街地密度 ～ 高密度だけでなく、高密度、中密度、低密度のメリハリ ～
- (3) 市街地・拠点間のネットワーク  
～ 自動車だけでなく、公共交通・徒歩・自転車と自動車が連携・共存した都市構造 ～

2 拠点と整備方向

- (1) 都心拠点  
中心市街地を位置づけ、広域的に人、もの、情報が集積・交流するまちづくりを行う。
- (2) 地域交流拠点  
自立性の高い地域の「顔」となる拠点として整備する。  
・ テクノポリスセンター地区 ・ 雀宮駅周辺地区 ・ 岡本駅周辺地区  
・ 上河内中里周辺地区
- (3) 産業・流通拠点  
工業団地機能の維持・強化や産業支援機能等を整備する。  
・ 既存の工業団地 ・ テクノポリスセンター地区 ・ インターパーク地区  
( ・ 宇都宮インターチェンジ周辺 )
- (4) 観光・交流拠点  
大谷公園周辺地域を位置づけ、魅力ある観光エリアとして整備する。

3 都市軸と整備方向

- (1) 広域連携交流軸  
産業、観光などにおける広域的な連携と交流の促進を図る。  
・ 東北自動車道 ・ 北関東自動車道 ・ J R 東北新幹線 等

(2) 地域連携交流軸

周辺都市や各拠点間を連絡し、公共交通と自動車との相互の連携強化を促進する。

- ・ J R 東北本線 ・ 東武宇都宮線 ・ J R 日光線 ・ 主要なバス路線
- ・ 3環状12放射道路

4 環境軸と整備方向

- (1) みどりの軸
- (2) 清流軸

5 ゾーンと整備方向

- (1) 市街地ゾーン
- (2) 田園ゾーン
- (3) 森林ゾーン

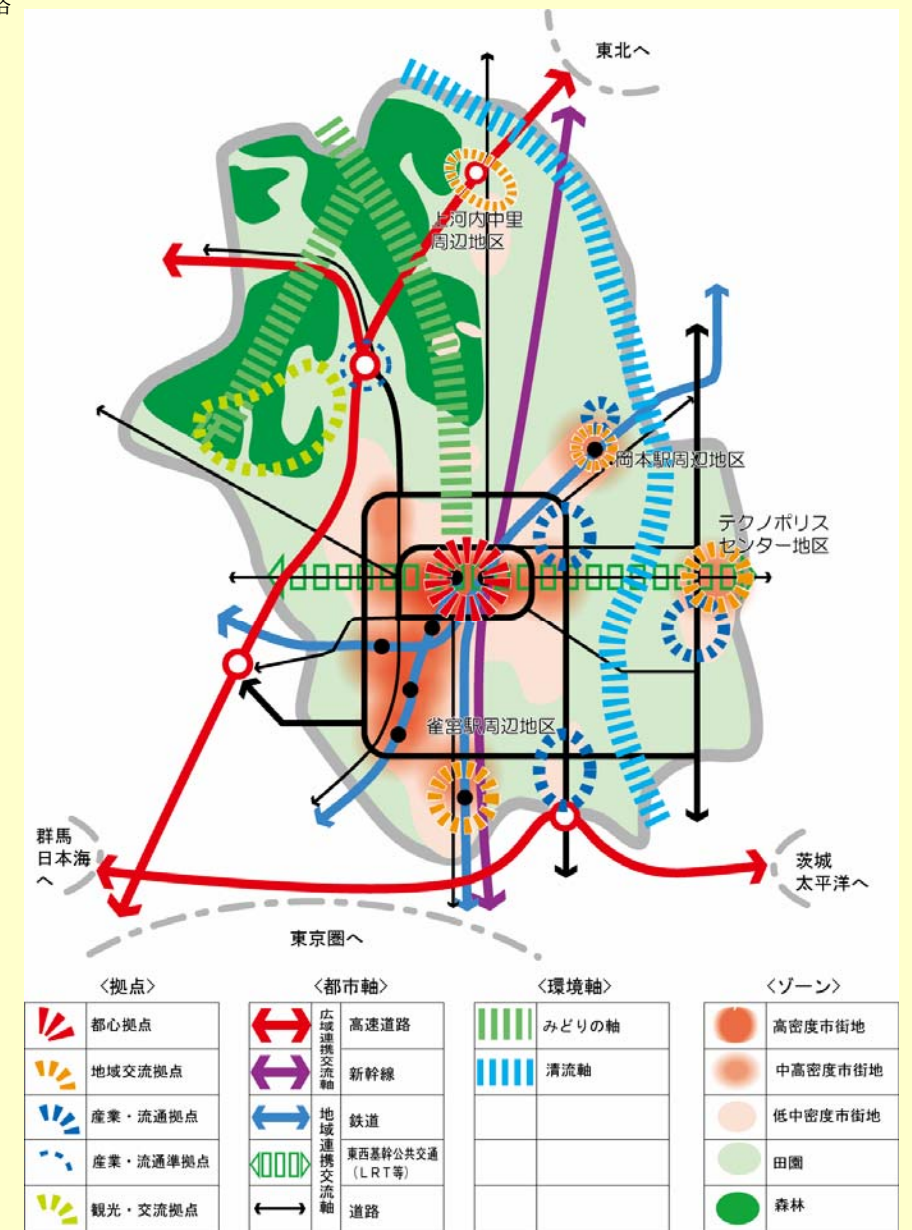


図 将来都市構造図